

赤崩山

杉崎 圭洋

■山行年月日:2019年1月13日～14日

■メンバー:大竹幹衛 大竹尚子

杉崎圭洋

■コースタイム:コースタイム

13日 甲子温泉(8:45)～猿ヶ鼻(13:00) (テント設営後上部ラッセル)

14日 テント場(6:30)～甲子山(8:00)～ 赤崩山北西稜 1600m 地点～甲子山(10:30)～猿ヶ鼻(11:30)～甲子温泉(13:25)

13日、289号線を左折してつるつるに凍りついた急な坂道を慎重に下り甲子温泉のとなりにある登山者用駐車場に到着した。温泉宿の前を通り過ぎて橋を一本渡ると登りが始まる。斜度がきついのでスノーシューでも好きなようには登らせてもらえず、新雪が少しへっこんでいる夏道と思われる所を交代でラッセルする。つづら折れの夏道はがんばっている割には全然高度が稼げない。景色も変わらず達成感の少ないラッセルを延々と続ける。ようやく猿ヶ鼻へたどり着くころにはお昼になってしまった。猿ヶ鼻からは斜度が緩み、少し登った所にテントを設営した。その後、明日の為にトレースを延ばしに甲子山の上部まで往復して本日は終了となった。

テントに戻り夕食となる。今日の夕食は何と「粉から手作りのナンとカレー」だとの事で、そんな物をテントで作れるのかと思っていたが、程よく焦げ目のついた香ばしいナン

が次々に焼き上がりスパイスの効いたカレーで腹いっぱい食べた。

14日、ぱっとしない天気だが風はなく穏やかである。昨日つけたトレースのおかげで順調に登高して甲子山の山頂に到着した。山頂から南西にある赤崩山は厚い雲に覆われて中腹までしか見えない。晴れていれば、ここからの赤崩山は最高の眺めだと思うが、今日はどんよりとした薄暗い灰色の山容が不気味な感じた。



赤崩山は厚い雲の中

甲子山から少し下りとなり、なだらかな鞍部はブナ林が見事だった。鞍部を過ぎると赤崩山の急登が始まる。風で雪が飛ばされているのかラッセルはさほどではないが、低い藪に乗っている雪がズボズボ抜かり出す。一步踏み込むとズボットはまりスノーシューが引っかけ前に進めない。両手両足を使いほとんど木登りのように、はまらないように進む。延々として踏み抜きとの格闘が続き時間だけ

が過ぎて行く。天候も悪く頂上が遠く思えだす。1600m付近の少し傾斜がゆるくなっている地点で引き返す事とする。



甲子山の山頂

甲子山の山頂まで戻り赤崩山を振り返るが上部は相変わらず厚い雲に覆われている。展望は諦めて甲子山を下りテントを撤収する。猿ヶ鼻を過ぎてつづら折れの下りに入る。最初はトレース通り歩いていたが、途中から尻セード大会に突入。昨日苦労して作ったつづら

折れのトレースを切り裂き雪まみれになって嬉々として下って行く。

あっと言う間に温泉宿に渡る橋の脇まで来てしまった。

さむ〜い山の後はお楽しみの温泉タイム。登り口が温泉宿とは最高のシチュエーションで、さらに秘湯マニアにはたまらない歴史のある温泉のようだ。清流のすぐ脇にある広々とした大岩風呂は風呂の中からも温泉のあぶくが出ていて風情たっぷり、少しぬるめのお湯が健康に良いとの事だ。しかし、なかなか上がるタイミングがつかめない。このままだと、いつまでも入っていそうなので諦めて風呂から上がる。次回は暑い夏にでも甲子山に登って赤崩山を眺めてから、もう一度、大岩風呂につかって見たい。

